

新潟運輸支局

～『バリアフリー新潟教室』を開催しました～

11月1日（木）午後、当支局主催の「児童を対象としたバリアフリー新潟教室」を当支局から南南東へ約20kmの方角・距離に位置する新潟市立小須戸小学校（新潟市秋葉区横川浜）において、同校の総合学習にタイアップして、開催しました。

このバリアフリー教室は、お年寄りや体の不自由な方が公共交通を円滑に利用できるようにするためには、施設整備面（ハード面）だけでなく、「心のバリアフリー」（ソフト面）が大切であるとの考え方から、開催しているもので、バリアフリーについて子供達に理解を深めていただくとともに、ボランティアに関する意識を高め、誰もがお年寄りや体の不自由な方々などに対し、『お手伝いしましょうか』とごく自然に声をかけて手助け（サポート）できる社会（心のバリアフリー）の実現を目指すものです。

対象となった同校6年生53名の児童達は、二班に分かれて「高齢者疑似コース」と「車椅子コース」の体験を通し、体の不自由な方やお年寄りの方が移動する場合、バリアフリーなくしては非常に大変であることを学びました。

各コースの具体的内容については次のとおりです。

〔高齢者疑似体験コース〕高齢者の体力や視力などの説明を受けた後、胸に着用したベストのポケットに重りを入れ、手首と足首に重りを装着し、利き足膝と利き腕肘をサポートで固定し、両目には白濁用ゴーグル、両耳にはディフェンダーを付けて杖を持った状態での歩行や階段の上り下りなどを体験しました。

〔車椅子体験コース〕車椅子の使用方法などの説明を受けた後、三角コーン及びマットを活用した車椅子での移動や新潟交通株のノンステップバスへの車椅子での乗り降りなどを体験するとともに、介助方法も学習しました。

参加児童に対するアンケートの結果、「今日、体験したことでの感想や意見」という設問について、「お年寄りや車イス利用者の方がいたら声をかけたり助けてあげたいと思った。お年寄りの気持ち、障害者の気持ちが分かった、大変なんだなと思った。」といった、高齢者や体の不自由な人の大変さへの理解やそのような人々に対しお手伝いしたいという優しい思いやりを表明する回答が多数ありました。

